

# 薬の危ない飲み合わせ

風邪や頭痛、花粉症の対処法として市販薬を飲む機会が多い季節です。知らず知らずの内に危ない飲み合わせをしていませんか？今回は、意外とやってしまいやすい薬と薬または食べ物の危険な組み合わせについてご紹介させていただきます。

総合感冒薬:コンタック・パフロン・エスタックイブ・コルゲンコーワなど  
鎮痛剤:パファリン・イブ・バイエルアスピリン・セテス・ナロンエースなど  
胃腸薬(H<sub>2</sub>ブロッカー):ガスター10、パンシロン H2 ベストなど

## (1) 風邪薬

- ・ 総合感冒薬 + 鼻水止め
- ・ 総合感冒薬 + 咳止め



→一般的にどんな症状にもある程度の効果を発揮するのが総合感冒薬です。基本的な考え方としては、「風邪を治す薬」では無く、「症状を緩和させる薬」です。風邪薬を購入する際には、「喉が痛い」「鼻水がつらい」など症状にあった薬を選ぶようにしましょう。両方を服用すると成分が重なってしまい、喉が渇く・便秘になる・眠気が強く出るなどの副作用症状が強くなることとなります。何れにしても、自己診断で市販薬を飲み続けず、できるだけ早めに医師の診断を受けるようにしましょう。

また、これからの季節は花粉症の薬の内服が増えます。花粉症の症状に加えて、風邪をひいてしまったような時には自己判断で市販薬を内服せず、かかりつけ医や薬剤師に相談するようにして下さい。

- ・ 総合感冒薬 + カフェイン飲料

→総合感冒薬にはカフェインが含まれている場合が多く、コーヒーや紅茶などのカフェインが含まれている飲み物で内服することにより、カフェインの多量摂取へとつながります。動悸・眩暈・ふるえなどの副作用症状が出現する可能性があります。



## (2) 鎮痛剤

- ・ 鎮痛剤 + 刺激物(唐辛子・ネギ・にんにく・アルコール飲料など)

→鎮痛剤には胃の粘膜を刺激する成分が含まれているため、唐辛子やにんにく、ネギ、アルコールや炭酸飲料などの刺激物を同時に摂取することで、ダブル効果で胃が荒れてしまいます。特にアスピリンという成分が含まれている鎮痛剤は出血しやすくなる作用も持ち合わせているため、胃に穴があくこともあります。鎮痛剤服用後の焼き肉や中華は危険がいっぱいです。



## (3) 胃腸薬

- ・ 胃腸薬 + アルコール

→暴飲暴食が続いて胃が荒れているから・・・と胃薬を飲んで酒席に参加すると胃薬の種類によっては大変なことが起こります。H<sub>2</sub>ブロッカーという成分が入っている胃腸薬は本来潰瘍などに効果があるもので、胃酸の分泌を抑える作用を持ち、アルコールの分解を抑制して、胃での吸収を高めてしまいます。そのため、いつもと同じ量の飲酒でも泥酔したり、急性アルコール中毒になってしまう危険があります。このような胃薬は注意書きに「本剤にはアルコール血中濃度を高める場合があります。」と必ず書いてあるので、服用前に確認するようにしましょう。胃腸薬について注意しなくてはならないことは、ただの食べ過ぎ飲み過ぎで無い場合もあることです。2週間以上に渡り、吐き気や痛みなどの違和感が続くような時には消化器科を受診するようにしましょう。